

はじめに

本報告書は、平成14（2002）年2月21日に開催された「NIME情報教育シンポジウム」での講演を取りまとめたものである。

NIMEは、「多様なメディアを高度に利用して行う教育の内容、方法等の研究及び開発並びにその成果の提供」を目的として、これまで、SCS、メディア教材開発、データベース、研修という4つの事業と、それらを支える研究開発を行ってきた。そして、平成14年度からは、これら4事業を見直し、「高等教育IT支援」を機軸とする新しい事業体制を展開している。

我々は、高等学校普通教科「情報」を中心とする「情報化への対応」を題材とした研修講座、教材開発、研究開発等を行ってきたが、関係諸氏の協力を得て、3年間にわたる高等教育機関向けの「高等学校普通教科「情報」の教員養成教材」がまとまり、事業体制が見直される機会に、研修事業、教材開発事業、研究開発を見すえた「まとめ」のシンポジウムを企画した次第である。

このシンポジウムでは、長年にわたり、初等中等教育を中心とする「情報教育」や「教育の情報化」の進展に御尽力なされている先生方に、その「取り組み」や「思い」をご紹介いただくとともに、開発されたメディア教材の内容や、それらの教材を活用した指導方法等に関わる話題を御提供いただき、高等教育機関において指導者を育成されている先生方との意見交換を行うことを目的とした。

ここでは、平成15年度から実施される学習指導要領で新設される高等学校普通教科「情報」を題材として、情報教育の協力者会議等に、直接的、あるいは、間接的に関わられてきた方々に話題を提供していただいた。そのため、高等学校普通教科「情報」設立までの経緯、御苦労、思い等が、正確、かつ、的確に伝わってくると思われる。

その意味では、高等教育機関における指導者のみならず、実際に各都道府県の教育センターや学校教育の現場において、当該教科の指導にあたられる方々にとっても、貴重な情報を得ることができるものと考えている。

本報告書の作成に御支援・御協力をいただいた方々に感謝するとともに、関係各位の教育・研究活動の一助となることを願っている。

平成15年1月

企画・編集：波多野 和彦